様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６月２４日現在

機関番号：３２３０６
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2007 年度　～　2010 年度
課題番号：19330177
研究課題名（和文）　近代日本人のキャリアデザインの形成と教育ジャーナリズム

研究課題名（英文）　A Historical on a Modern Japanese Carrier Design Formation and Educational Journalism before the war

研究代表者
菅原　亮芳　（SUGAWARA AKIYOSHI）
高崎商科大学・商学部・教授
研究者番号：　40348149

研究成果の概要（和文）：日本の現実にてらして、自己の発見とライフサイクルの理解、家庭、学校、職場という外部環境の理解を通して自らの生き方の表現と将来設計を行うなどの、いわゆる近代日本人のキャリアデザインの形成を方向づけるのに大きな役割を果たしたメディアの性格を歴史的に明らかにした。今回の研究では、従来未開拓であった職業案内書の発掘とその分析を行った点に独創性を見出した。また、雑誌メディアを拡大し、7 雑誌を研究対象とした。

研究成果の概要（英文）：
This study explored the major role played by career design guidebooks published in Japan before WWII in canalizing career planning for young adults. These individuals expressed their way of life and future planning in the light of the realities of life through understanding their self identity and life cycles as well as their external environment such as family, school, and workplace.
Analyses of the seven journals confirmed that they were a practical tool for building an effective, focused development plan at every stage such as designing to assist individuals in identifying some significant personal preferences. The guides highlighted self-awareness while providing access to the most current occupational information available.
The significance of this study is twofold. First this research attempted to address a gap in Japanese education literature by looking at hitherto unknown career design guidebooks, and analyzed the interactions between personal preferences and the specific career development and life options that align them. The second major contributions of this study was that it added to the sparse research on career planning models provided by the informal education system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	6,800,000	2,040,000	8,840,000
２００８年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
２００９年度	2,500,000	750,000	3,250,000
２０１０年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総　計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

研究分野：教育学
科研費の分科・細目：4001
キーワード：（１）教育ジャーナリズム　（２）雑誌メディア　（３）キャリアデザイン　（４）ライフコース　（５）学び

１．研究開始当初の背景

（１）本研究は、「近代日本人のキャリアデザインの形成と教育ジャーナリズム」というテーマのもとに明治中期から昭和戦前期を対象時期として、教育ジャーナリズムの中でも雑誌メディアが発信した情報を、近代日本人の自己発見、学校選択、職業選択、ライフコースの設定という角度から歴史的に検証することを目的とする。

（２）ここでいうキャリアデザインとは、Hall, Douglas.T. などの研究があるが、日本の現実にてらして、自己の発見とライフサイクルの理解、家庭、学校、職場、地域という外部環境の理解を通して自らの生き方の表現と将来設計を行う姿勢・能力や見識を指す。青年に即して言いかえれば、大学進学前およびその後の体験や視聴覚的なメデイアを通して獲得した第二次的経験を、イマジネーションを通じてキャリアデザインにつなぐ行為を指す。

（３）このような研究関心のもとでの成果は極めて少ない。例えば、①竹内洋『日本人の出世観』学文社、1979 年、『立志　苦学　出世』講談社、1991 年と②前田愛『近代読者の成立』筑摩書房、1985 年、③E.H.キンモンス『立身出世の社会史』玉川大学出版部、1995 年等である。しかし、①は画期的な研究であるが学習行動を学歴に準ずる資格獲得に結びつけて語りすぎるきらいがあり、②は先駆的な研究であるが資料紹介の域を出ていない。③は日本人と立身出世主義について「外」からの研究であり興味深いが、概括的な領域を出ていない。

（４）これまで、筆者は、科学研究費補助金（基盤（B）平成 15 年度～平成 18 年度）を受け、明治中期から昭和戦前・戦中期を対象時期とし、この時期における近代日本人の自己形成探求過程における雑誌メディアや進学案内書などの定期刊行物が発信した情報を、〈受験・進学・学校〉という角度から歴史的に検証してきた。勿論、これらの研究は全面的に完結したものとは言えない。しかし、今回の研究は従来のそれのように学歴志向に支えられた進学行動のための情報に限定しない。①キャリアデザイン形成への情報を収集し、分析することにおき、②対象とする雑誌メディアを拡大するという試みに挑戦する、という２つを目標としたい。（５）対象とする雑誌メディアも必然的に拡大する。例えば、『少年園』『中学世界』『帝国青年』『成功』『職業指導』等である。

（６）前回の科学研究費による研究の中で、例えば『受験と学生』『受験旬報』『螢雪時代』などや進学案内書の研究は一部分しか進んでいないので、今回も補完的な仕事として継続していく。

２．研究の目的

（１）先に記したように、明治中期から昭和戦前期を対象時期とし、教育ジャーナリズムのなかでも雑誌メディア等が発信した情報の研究を行うことを目的とする。具体的には 4 つの研究目標を立て、実証的・歴史的に研究する。

（２）研究テーマに即して近代日本において出版された教育ジャーナリズム、なかでも雑誌メディアの出版状況とその種類の特徴と変化を整理・展望する。

（３）雑誌メディア等の書誌的検討を行う。発刊の趣旨、発行主体、発行部数、執筆者、読者層、誌面構成の特色と変化を分析するとともに、目次の集成を行い、正確な発行年月日等を明らかにする。雑誌そのものの「顔」が見えるようにする。

（4）内容分析としては、4 つの観点、即ち①自己発見、②学校、③職業、そして④ライフワークの設定などの選択にかかわる情報がいかに発信され、どのように読者に届けられ、いかに定着したか、あるいはしなかったかなどを歴史的に明らかにする。

周知のように、戦前の日本では主に雑誌メディアを舞台として自己発見情報や学習行動・キャリア選択行動等のあり方がさまざまに報道されてきた。その際、どのような情報が提示されたか。メディアごとの情報選択基準は何であったか、またどう変化したか。そしてそれらの情報は、子どもや青年男女の「学び」（自己の発見、学習の内容や様式、進学志向、将来設計）をどのように方向づけたのか。こうした課題を実証的に明らかにしようと企画したのが本共同研究である。

（5）以上の課題への取り組みを通して、近代日本人のキャリアデザインの形成において教育ジャーナリズムがいかにかかわったのかを明らかにする。

３．研究の方法

【平成 19 年度】

（1）研究の性格上、かなりの拡がりをもつ作業であったので、基礎的資料の収集の段階とそれらを使った内容的研究の２段階に分けた。まず前者を研究代表者及び研究分担者・連携協力者全員で固め、その作業に平成 19 年度をあてた。後者の作業に平成 20 年度と平成 21 年度との２年間をあて、各雑誌等を分担し内容的な研究を行った。

（2）各雑誌の目次と奥付を収集、記事のトピックと領域・執筆者名・編集者名・発行年月日等のキーワード等に即してデータベースを作成。

（3）教育史研究分野だけでなく日本出版関係研究の方法を駆使し、例えば出版社の性格、発行部数、発行人のキャリア等を調査しデータベースを作成。

【平成 20 年度】

（1）前年度の作業を踏まえ、雑誌の書誌的・内容的分析を行う一方で、自己発見、学校選択、ライフワークの設定の研究に踏み出した。「職業案内書」や雑誌『職業指導』『少年園』『成功』『帝国青年』『女子青年界』『中学世界』の雑誌メディアをそれぞれ担当した。

（2）各雑誌メディアの担当者たちは、書誌的検討を行うと同時に、自己発見、学校選択、職業選択、ライフコースの設定という観点から各情報を整理し、データベースを作成し、次年度の内容分析に備える作業を行う。また広告情報も視野に入れておく。

【平成 21 年度】

（1）研究の折り返し年度として位置づけ、過去２年間の研究の中間総括を行った。

（2）前年度までの対象雑誌担当を固定し、さらに対象雑誌の内容分析を深化させ研究を展開した。

（3）テーマの一貫性の維持をはかりつつ最終報告書へのまとめの作業としての時間を確保した。

【平成 22 年度】

最終報告書の刊行をめざし、これまでの研究成果を集成し、まとめの作業を行った。

４．研究成果

(1) 日本の現実にてらして、自己の発見とライフサイクルの理解、家庭、学校、職場という外部環境の理解を通して自らの生き方の表現と将来設計を行うなどの、いわゆる近代日本人のキャリアデザインの形成を方向づけるのに大きな役割を果たしたメディアの性格を歴史的に明らかにした。

（2）未開拓であった職業案内書の発掘とその分析を行った。明治期を時期対象とし案内

書の著者たちが提供した職業選択情報を①学校の社会化からの動向、②資格化の到来、③都市化の進行という観点から歴史的に考察した。

その結果、職業案内書は、一方では教育政策や労働政策の反映を示すものであり、もう一方では人生選択としての職業選択にとっての権利を獲得する手段を得る情報という性格を持っていたこと、すなわち職業に関する情報を媒体として青年たちの就職への志と具体的な職業情報とを取り結び、彼等の志に一定の方向性を付与する有力な要因であった。

(3)同時に、近代日本人のキャリアデザインが形成される際、いかなる動因、すなわち inducing factor が与えられるかを語る有力なメディアであったと思われる。

(4)案内書の価格の推移から見て、言わば職業市場というものが形成され、発行部数、読者などは確実に増加していったと推定される。

(5)今後の研究課題としては、①時代が下がって、大正、昭和戦前期にかけての案内書を検討すること、②読者層の研究が大切であること、③「キャリアライフのイメージをどのように読者に形成したか」というテーマのもとに、自叙伝などを素材として研究したい。

(6)今回の研究では、心理学の専門家を加えて健常児だけでなく「異常青少年」のキャリアデザインの形成情報、具体的には職業選択情報の検討も試みた。職業指導雑誌メディア『職業指導』を研究対象として取り上げ、「論説」欄に掲載された記事を①「異常青少年」の性能と適職などの発見の論理とその方法、②教育施設、③家庭・学校や雇用主との連携という観点から検討を行った。

結果、『職業指導』は、一方では身体障害、知的障害、精神障害を持つ「異常青少年」に焦点を当てていること、もう一方では「異常青少年」の人生選択としての職業選択にとって権利を獲得する手段を得る情報という性格を持っていたこと、すなわち職業に関する情報を媒体として異常青年たちの就職への志と具体的な職業情報とを取り結び、彼等の志に一定の方向性を付与する有力な要因であったことが明らかになった。同時に、近代日本人、なかでも「異常青少年」のキャリアデザインが形成される際、いかなる動因、が与えられるかを語る有力なメディアであったと思われる。

(7)今後の研究課題としては『社会と教化』『社会教育』に所載された「異常青少年」の職業選択情報の検討を雑誌『職業指導』の記事との比較を通して検討する必要がある。

(8)以上のような職業案内書や雑誌メディアのほかに『少年園』『中学世界』『成功』『帝国青年』『女学世界』『女子青年界』の6誌を対象とし、正統的な「学校」教育の「成功者」だけでなく「学び」の場での非成功者や、あるいはそうした学習を断念していった人々に対して光を当て、また他方では男子だけでなく女子を対象として歴史的に考察した。この研究は学校システムの企画・構築にかかわる政治過程の分析を重視する伝統的な教育史研究を越えて、子どもの側、青年の側の現実にてらして、自己の発見とライフサイクルの理解、家庭、学校、職場という外部環境の理解を通して自らの生き方の表現と将来設計を行う姿勢や態度の形成がどのように喚起され、どのような方向性をもってキャナライズされたかを検討する事が求められたが、未だ十分に研究成果が出せとは言い難く、全面的に完結したものではない。

(9)そこで、今後は、モノグラフィックに研究を深め蓄積していく作業を継続していく必要があるが、雑誌メディアを正面から取り

上げた点においては学術的な特色があると考える。

(10)最終報告書を編集した。最終報告書の目次構成は以下の通りである。

目　次

〈論文〉

序　・・・・・　菅原亮芳

職業案内書

第１章　明治期における職業案内書の研究　・・・・・
菅原亮芳・下山寿子・八木美保子

雑誌『職業指導』

第２章　雑誌『職業指導』の書誌的概観－「論説」欄にあらわれた支配的言説　・・・・・
八木美保子

第３章　雑誌『職業指導』にあらわれた「異常青少年」の職業指導情報の研究－「論説」欄の記事を中心に－　・・・・・　下山寿子

諸雑誌に見られるキャリアデザイン情報

第４章　雑誌『少年園』にあらわれた明治 20 年代の青少年のキャリアデザイン－書誌的分析を通じて－　・・・・・　小熊伸一

第５章　雑誌『成功』の分析－職業情報を中心に－　・・・・・　三上敦史

第６章　雑誌『帝国青年』にあらわれた地方青年のキャリアデザイン情報の分析　・・・・・
高瀬幸恵

第７章　雑誌『女学世界』に見る女性たちのキャリアデザイン－明治後期を中心として－　・・・・・　石渡尊子

第８章　日本ＹＷＣＡ機関誌『女子青年界』に見るキャリア情報　・・・・・　榑松かほる

解説：雑誌『中学世界』

第９章　雑誌『中学世界』の書誌的分析　・・・・・
吉野剛弘

第 10 章　雑誌『中学世界』にみる受験・進学情報　・・・・　吉野剛弘

第 11 章　雑誌『中学世界』にみる独学情報　・・・・・
三上敦史

第 12 章　雑誌『中学世界』にみる苦学情報　・・・・・
菅原亮芳

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

①石渡尊子、雑誌『女学世界』に見る女性たちのキャリアデザイン－明治後期を中心として－、桜美林論考　心理・教育研究、査読有、第２号、2011、21－41 頁

②吉野剛弘、雑誌『中学世界』にあらわれた受験・進学情報、中等教育史研究、査読有、第 17 号、2010、1－18 頁

③吉野剛弘、近代日本人と教育ジャーナリズム：雑誌『中学世界』にあらわれた職業情報、東京電機大学総合文化研究、査読有、第８号、2010、111－118 頁

④三上敦史、雑誌『中学世界』にみる独学情報、愛知教育大学研究報告、査読無、第 58 輯（教育科学編）、2009、115－123 頁

⑤菅原亮芳、近代日本人のキャリアデザイン形成と教育ジャーナリズム（２）－雑誌『中学世界』にあらわれた苦学情報－、高崎商科大学紀要、査読有、第 24 号、2009、73－78 頁

⑥下山寿子、雑誌『職業指導』にあらわれた『異常青少年』の職業指導情報の研究（１）－『論説』欄の記事を中心に－、高崎商科大学紀要、査読有、第 23 号、2008、159－174 頁

⑦八木美保子、雑誌『職業指導』にあらわれた学校職業指導実践の研究（１）－1928 年～1940 年－、高崎商科大学紀要、査読有、第 23 号、2008、197－207 頁
⑧吉野剛弘、受験準備教育機関としての旧制中学校の補習科－東京府立中学校を事例として－、慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要、査読有、第 66 号、2008、13－26 頁
⑨菅原亮芳、近代日本人のキャリアデザイン形成と教育ジャーナリズム（１）－研究計画・「大日本国民中学会」『新国民』（その１）－、高崎商科大学紀要、査読有、第 22 号、2007、39－72 頁

〔学会発表〕（計 2 件）
①菅原亮芳・小熊伸一・三上敦史・吉野剛弘、雑誌『中学世界』にあらわれた受験・進学・独学・苦学情報、日本教育学会第 67 回大会、2008、於佛教大学
②菅原亮芳・下山寿子・八木美保子、明治期における職業案内書の研究、日本教育学会第 68 回大会、2009、於東京大学

〔図書〕（計 1 件）
①菅原亮芳、近代日本人のキャリアデザインの形成と教育ジャーナリズム、高崎商科大学、2011（刊行予定）

６．研究組織
(1)研究代表者
菅原　亮芳（SUGAWARA AKIYOSHI）
高崎商科大学・商学部・教授
研究者番号：40348149

(2)研究分担者
下山　寿子（SHIMOYAMA TOSHIKO）
高崎商科大学・商学部・准教授
研究者番号：30287908

(3)連携研究者
寺﨑　昌男（TERASAKI MASAO）
立教学院・本部調査役
研究者番号：20062573
榑松　かほる（KUREMATU KAORU）
桜美林大学・資格・教職教育センター・教授
研究者番号：90112656
小熊　伸一(OGUMA SHINICHI)
中部大学・現代教育学部・教授
研究者番号：40221155
三上　敦史（MIKAMI ATUSHI）
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：30362304
石渡　尊子（ISHIWATA TAKAKO）
桜美林大学・健康福祉学群・専任講師
研究者番号：40439055
吉野　剛弘（YOSHINO　TAKEHIRO）
東京電機大学・情報環境学部・専任講師
研究者番号：90369893
高瀬　幸恵（TAKASE YUKIE）
鶴川女子短期大学・専任講師
研究者番号：30461792

(4)研究協力者
八木　美保子（YAGI MIHOKO）
高崎商科大学・商学部・非常勤講師